

# 社交不安障害の診断・治療に際しての留意事項

監修/国際医療福祉大学 医療福祉学部 教授 上島 国利 先生

パロキセチン錠「DSEP」においては、添付文書「効能・効果に関連する使用上の注意」に記載していますとおり、社交不安障害の診断はDSM等の適切な診断基準に基づき慎重に実施することが求められています。

＜効能・効果に関連する使用上の注意＞（抜粋）

2. 社会不安障害及び外傷後ストレス障害の診断は、DSM\*等の適切な診断基準に基づき慎重に実施し、基準を満たす場合にのみ投与すること。

\*DSM: American Psychiatric Association (米国精神医学会) の Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders (精神疾患の診断・統計マニュアル)

DSM-5<sup>1)</sup>における社交不安障害の診断基準は、下記のとおりです。

## 社交不安症/社交不安障害 (社交恐怖) Social Anxiety Disorder ( Social Phobia)

### 診断基準

- A. 他者の注視を浴びる可能性のある1つ以上の社交場面に対する、著しい恐怖または不安。例として、社交的なやりとり (例: 雑談すること、よく知らない人に会うこと)、見られること (例: 食べたり飲んだりすること)、他者の前でなんらかの動作をすること (例: 談話をすること) が含まれる。  
注: 子どもの場合、その不安は成人との交流だけでなく、仲間達との状況でも起きるものでなければならない。
- B. その人は、ある振る舞いをするか、または不安症状を見せることが、否定的な評価を受けることになるかと恐れている (すなわち、恥をかいたり恥ずかしい思いをするだろう、拒絶されたり、他者の迷惑になるだろう)。
- C. その社会的状況はほとんど常に恐怖または不安を誘発する。  
注: 子どもの場合、泣く、かんしゃく、凍りつく、まといつく、縮みあがる、または、社会的状況で話せないという形で、その恐怖または不安が表現されることがある。
- D. その社会的状況は回避され、または、強い恐怖または不安を感じながら耐え忍ばれる。
- E. その恐怖または不安は、その社会的状況がもたらす現実の危険や、その社会文化的背景に釣り合わない。
- F. その恐怖、不安、または回避は持続的であり、典型的には6ヵ月以上続く。
- G. その恐怖、不安、または回避は、臨床的に意味のある苦痛、または社会的、職業的、または他の重要な領域における機能の障害を引き起こしている。
- H. その恐怖、不安、または回避は、物質 (例: 乱用薬物、医薬品) または他の医学的疾患の生理学的作用によるものではない。
- I. その恐怖、不安、または回避は、パニック症、醜形恐怖症、自閉スペクトラム症といった他の精神疾患の症状では、うまく説明されない。
- J. 他の医学的疾患 (例: パーキンソン病、肥満、熱傷や負傷による醜形) が存在している場合、その恐怖、不安、または回避は、明らかに医学的疾患とは無関係または過剰である。

該当すれば  
特定せよ

**パフォーマンス限局型: その恐怖が公衆の面前で話したり動作をしたりすることに限定されている場合**

【解説】パフォーマンス限局型社交不安症をもつ人は、専門家の生活 (例: 音楽家、ダンサー、芸人、運動選手) において、または、日常的に人前で話をする必要がある役割において、典型的に最も障害を生じるパフォーマンス恐怖を有している。日常的に人前で発表することを求められる仕事、学校、大学研究室の場面において、パフォーマンス恐怖は現れることがある。パフォーマンス限局型社交不安症をもつ人は、パフォーマンスのない社交状況を恐怖または回避したりはしない。

# 社交不安障害の臨床症状評価尺度について

## LSAS-J (Liebowitz Social Anxiety Scale 日本語版)<sup>2)</sup>

LSAS-Jは社交不安障害(SAD)\*の臨床症状や薬物療法、精神療法の治療反応性を評価する尺度として広く使用されているLSASの日本語版で、原語である英語版のほか、フランス語版及びスペイン語版においてもその信頼性と妥当性が検討・確認されている評価尺度です。社交不安障害の臨床症状評価尺度としてご利用ください。

\*:2008年に日本精神神経学会において「社会不安障害」は「社交不安障害」に名称が変更されました。  
(日本精神神経学会・精神科用語検討委員会編・精神神経学用語集改訂6版 2008・新興医学出版社)

〈お願い〉

この1週間にあなたが感じていた様子に最もよく当てはまる番号を、項目ごとに1つだけ選んで記入してください。項目をとばしたりせずに全部埋めてください。

	恐怖感／不安感				回避			
	0:まったく感じない	1:少しは感じる	2:はっきりと感じる	3:非常に強く感じる	0:まったく回避しない	1:回避する(確率1/3以下)	2:回避する(確率1/2程度)	3:回避する(確率2/3以上または100%)
1. 人前で電話をかける (P)	0	1	2	3	0	1	2	3
2. 少人数のグループ活動に参加する (P)	0	1	2	3	0	1	2	3
3. 公共の場所で食事をする (P)	0	1	2	3	0	1	2	3
4. 人と一緒に公共の場所でお酒(飲み物)を飲む (P)	0	1	2	3	0	1	2	3
5. 権威ある人と話をする (S)	0	1	2	3	0	1	2	3
6. 観衆の前で何か行為をしたり話をする (P)	0	1	2	3	0	1	2	3
7. パーティーに行く (S)	0	1	2	3	0	1	2	3
8. 人に姿を見られながら仕事(勉強)する (P)	0	1	2	3	0	1	2	3
9. 人に見られながら字を書く (P)	0	1	2	3	0	1	2	3
10. あまりよく知らない人に電話をする (S)	0	1	2	3	0	1	2	3
11. あまりよく知らない人達と話し合う (S)	0	1	2	3	0	1	2	3
12. まったく初対面の人と会う (S)	0	1	2	3	0	1	2	3
13. 公衆トイレで用を足す (P)	0	1	2	3	0	1	2	3
14. 他の人達が着席して待っている部屋に入っていく (P)	0	1	2	3	0	1	2	3
15. 人々の注目を浴びる (S)	0	1	2	3	0	1	2	3
16. 会議で意見を言う (P)	0	1	2	3	0	1	2	3
17. 試験を受ける (P)	0	1	2	3	0	1	2	3
18. あまりよく知らない人に不賛成であると言う (S)	0	1	2	3	0	1	2	3
19. あまりよく知らない人と目を合わせる (S)	0	1	2	3	0	1	2	3
20. 仲間の前で報告をする (P)	0	1	2	3	0	1	2	3
21. 誰かを誘おうとする (P)	0	1	2	3	0	1	2	3
22. 店に品物を返品する (S)	0	1	2	3	0	1	2	3
23. パーティーを主催する (S)	0	1	2	3	0	1	2	3
24. 強引なセールスマンの誘いに抵抗する (S)	0	1	2	3	0	1	2	3

P:Performance(行為状況) S:Social interaction(社交状況)

### ◆評価のめやす(総得点0~144点)<sup>3)</sup>

恐怖感／不安感合計	回避合計	総合計
-----------	------	-----

約30点	境界域
50~70点	中等度
80~90点	さらに症状が顕著。苦痛を感じるだけでなく、実際に社交面や仕事などの日常生活に障害が認められる。
95~100点以上	重度 働くことができない、会社に行けないなど社会的機能を果たすことができなくなり、活動能力がきわめて低下した状態におちいつている。

2) 朝倉 聡ほか:精神医学, 44(10), 1077, 2002

3) Liebowitz M.R. et al.:臨床精神薬理, 5(4), 433, 2002より改変



第一三共エスファ株式会社